

平成29年度 第3回 明石市立明石商業高等学校魅力づくり検討会議 議事録

日 時：平成29年12月19日（火） 15：30～17：00

場 所：明石市役所分庁舎 4階 教育委員会室

出席者：委員12名（会長、副会長含む）、教育長、事務局6名

【委員】（学識経験者） 廣岡 徹、細川 明子、中嶋 修平
（明石商工会議所代表）山本 直樹
（学校関係者） 長畑 順二、日置 大之、宗石 理、大賀 通孝、
吉永 達生、森本 明子（欠席）
（行政関係者） 北條 英幸
（保護者代表） 井藤 圭順、堀川 彰子（欠席）
【教育長】 公家 裕
【事務局】 平田 高之、藤井 鉄也、藤田 靖、庄司 淳一、
橋本 浩二、山脇 健次

傍聴者：0名

【配付資料】

協議（1）国際会計科の活性化について 資料

協議（2）保育の学びについて 資料

平成29年度 第1回 明石市立明石商業高等学校魅力づくり検討会議 議事録
進学状況について

別添資料1 【兵庫大学】生涯福祉学部 こども福祉学科
別添資料2 【兵庫大学】短期大学部 保育科第一部・第三部
別添資料3 【兵庫大学】生涯福祉学部 こども福祉学科 就職状況
別添資料4 【兵庫大学】短期大学部 保育科第一部・第三部 就職状況
別添資料5 【兵庫大学】平成29年度出前講座 アカデミック・レクチャー
別添資料6 【兵庫大学】高校生のための大学先どりセミナー
別添資料7 【兵庫大学】高校生のサマーセミナー（チラシ）
別添資料8 【関西保育福祉専門学校】保育科
別添資料9 【関西保育福祉専門学校】保育科 教育課程
別添資料10 【関西保育福祉専門学校】就職状況
別添資料11 【関西保育福祉専門学校】就職データガイド2018
別添資料12 【関西保育福祉専門学校】保育科 出前講座
別添資料13 全国の専修学校の入学定員、志願者数及び入学者数の推移

◎：会長　○：副会長　□：委員　●：事務局

●皆様、こんにちは。

定刻になりましたので、只今から平成29年度第3回明石市立明石商業高等学校魅力づくり検討会議を開会いたします。本日、進行をさせていただきます学校教育課長の藤井でございます。どうぞよろしくお願いいたします。まず、本日の資料については、事前に送付しておりますがお持ちいただいておりますでしょうか。お持ちでないようであれば、事務局職員へご連絡願います。

なお、事前送付資料に差替えがございます。机の上に置いておりますので、ご確認願います。

◎どこがかわっているか。

●（1）上位者への対応の二つ目の中黒、平成29年9月1年生：全商1級を全商英検1級に変更しております。

設置要綱第6条第2項に基づきまして、出席の確認をいたします。本日の欠席者は、堀川委員、森本委員の2名となっております。委員の過半数の出席がございますので、検討会議を開催いたします。それでは、次第により進行いたします。

本日の進行は、明石商業高等学校国際会計科の活性化と保育に関する学びについて、委員の皆様からご意見をいただき、協議を進めていただきたいと思いますと思っております。

それでは、この後の進行につきましては、会長にお願いしたいと思っております。

廣岡会長、よろしくお願いいたします。

◎第1回、第2回と基本的な部分については、十分協議をいただきましてこの後ご報告があろうかと思いますが、個々の具体的な取り組みについていろいろなご意見を伺っていきたく思います。それでは、会に入ります。

2 報告事項

（1）平成30年度公立高等学校入学者選抜における明石市立明石商業高等学校商業科の学力検査における学区について

（2）平成30年度明石市立明石商業高等学校生徒募集定員等について

◎まず、報告事項として、「平成30年度公立高等学校入学者選抜における明石市立明石商業高等学校商業科の学力検査における学区について」と「平成30年度 明石市立明石商業高等学校生徒募集定員等について」をあわせて、事務局よりご報告願います。

●第2回検討会議でご議論いただきました内容につきまして、7月19日に教育委員会議会で決定いたしまして、平成30年度の入学者選抜にかかる学力検査による通学区域につきましては、旧明石学区から県下全域と変更し実施することになりました。

なお、推薦入試における通学区域を全国学区へ拡大することについても教育委員会議でご協議いただきました。主なご意見といたしまして、

①

全国から募集した場合、寮など生徒の住居や食事、健康管理部分の対応がまだしっかり考えられておらず、解決すべき課題が多い。

②

大きな変更をするには2年前くらいから発表するのが一般的であり、現中学3年生から全国学区にするには周知期間が短すぎる。

③

商業科に特化した形で魅力をつくるために全国学区へ変更しようとするならば理由として理解できるが、特別活動で全国学区とする意味があるのか。

などの意見が出され、推薦入試の全国学区につきましては見送られることになりました。

また、「平成30年度明石市立明石商業高等学校生徒募集定員等について」は、10月19日に兵庫県教育委員会が記者発表した通り、商業科240人、国際会計科40人の計280人となりました。

これにより、来年度から全学年280名、全校840名という募集定員になりました。

以上、ご報告でございます。

◎はい、どうもありがとうございました。変更点としましては、学力検査による通学区域につきましては、旧明石学区から県下全域と変更するようになったこと、全国学区については見送られたというご報告がありました。

この件に関しましてご意見ありましたらお伺いしたいと思いますがいかがでしょうか。

【質疑応答】

◎私自身は、この段階では時期尚早という話をさせていただいたのですが、野球部への希望の状況などを見ていますと将来的に全国という打ち出しをすることが明石からあってもいいのかなと思うような気もしています。他と比べて無理だからやめておこうというのではなくて、またどこかで全国の生徒をたとえ何パーセントでもということ踏み切られるのであれば、検討を続けられてもいいのかなと思いました。先生方を含めて考えていただけるきっかけには十分だったと思いますし、今回は見送りという形でまとめてもらっていますけれども、将来的に検討の余地を残していただいてもいいのかと思っております。

何かこの件で、ご意見あればお願いします。

□今おっしゃられたように、継続して検討していただくことは意味のあることかなと思いました。少ない人数で限定していただければ、活性化にもつながると考えます。

◎それでは、協議に入ります。

協議（１）国際会計科の活性化について

◎まず、「国際会計科の活性化」について、明石商業高等学校から新たな魅力づくりや現在考えておられる留学プログラム、そしてENGLISH DAYの紹介を含めご説明願います。

□それでは、国際会計科の魅力づくりということがあって、今回の協議の１点目でありますので学校として考えている内容を簡単にお話させていただきます。来年度からですが、留学制度の整備です。これまで留学を推し進めたり、PRしたり生徒に声をかけるということはほとんどなかったようですが、今年、今の高校１，２年生に夏休み中の留学に参加しないかということについての予備調査を国際会計科の方にしてもらいました。そこにある数字がその結果です。１年生９名、２年生４名、計１３名の希望者がありましたが、紹介したプログラムが高いこともありましたが、本校が留学プログラムとして紹介したのは、値段がそこに書いてありますが、４４日間で８０万円ということで、大方１００万になります。ご家庭の負担を考えると１３名のうち、今の１年生のうち男子１名が行きたいということで申し込んできました。今後は時期や金額を考えて、留学制度を県や国もやっていますので、もう少し活発にしていければいいのかと思います。

外国人講師等を活用した英語プログラムの実施ということで、これも１学期に国際会計科の方から提案がありました。県立高校はこういうプログラムをやっている。英語の外国人講師を呼んで１日中英語づけにするというプログラムをやっているのですが、同じようなものを業者に頼んで企画してもらい、ずっと英語を使って１日２日３日希望者でやろうというものです。これは、当然業者がやりますので有料になります。１日１人１万、３日で３万円ということで、希望者は、１日参加したいというのが７名、２日間で２名、３日間ともが６名ということで、合計１５名が潜在的に参加したいと思っている。現状的には、生徒から１人１万円をとって、イングリッシュプログラムをやるのは少し課題もあるかなということで、今は保留になっています。

３番目ですが、資格取得対策の充実と結果のPRですが、来年の入学生で国際会計科は１０期生を迎えます。始まった年は、４０名中１６名ということでスタートから少し苦しんでいましたが、ようやく魅力も伝わったのかこの４月に入った生徒は英検の２級、準２級取得者がそれぞれ２名ずつおり高いレベルの生徒も入ってくれるようになりました。この９月に、その１年生が全商（全国商業協会）の資格ですが、１級にも３名合格しました。上位も入ってきているということで、授業も２分割でやっているのですが、英語科の方からレベルが広がっているので３分割でやりたいという話もありましたが、結果的に２分割でやることになりました。次に、英語の４技能に対応する（家庭）学習の充実ということでR社のスタディサプリの導入・スマホを使って４技能を鍛えるレッスンが１５分ででき、今後考えていかなければいけないと思っている。

次に、国際理解教育の充実ということで、英語が好きで国際理解に興味があるというのが国際会計科の募集の宣伝文句になっているので、国際理解の意識を高めるために学校設定教科「国際理解」の外部講師によるワークショップ、修学旅行に行き、プレゼンをする学びをこの設定教科の中でやります。商業科にはない独自の授業を行い、来年からはグレードアップし、内容も充実させ、国際会計科で国際理解という教科の重要な中身を考えてもらっているところです。

それを指導する教師の方も国際理解、グローバル感覚を磨いてもらわなければなりませんので、外部研修への参加、海外研修派遣、2年担任がJICAのネパール研修に1週間行っております。それが、最終的には魅力づくりにつながると考えております。このようなことを現状、学校では考えているところでございます。

◎はい、ありがとうございました。それでは、ただいま、明石商業高等学校より説明がありましたが、このことについて委員の皆様からご質問、ご意見ありましたら、どうぞお出してください。何でも結構です。夢も含めて語っていただければと思います。英語の実践力を高めることが高校では普通になってきている中で、特化したものを明石商業で行うのは一つの魅力づくりになる。そのためには市教委にどういったことをお願いしたらいいのかということも含めてご意見をいただければと思います。

【質疑応答】

○留学に44日間で80万円と高値なので、もっと短くして20万円ぐらいにならないかな。

□期間を短くすると、英語に接する時間が短くなると意味がない。やはり行く限りはある程度の力を身に付けさせるということで、最初60日間を考えていたのですが、帰ってくるのは9月末になってしまう。9月の勉強ができない。業者をお願いをして、最初言われていたのが120万円で60日間、それを40万円ほど引いていただきまして、80万円で44日間というような留学を紹介した。どれだけ英語の力を伸ばして帰ってくるかということを楽しみにしているところです。これを4月から来年、再来年と続けていきたいと考えています。期間を短くしすぎると語学力がつかない。

◎安全、安心のことを考えると業者はきちっとやっていくという面では評価できるのではないかな。他いかがでしょうか。昔、国際理解が取り入れられたころ、学校と同窓会とPTAで国際理解教育推進委員会をつくっていただいた。全校生に希望者を募るということで、一定のバックアップをしてくれる組織をつくったんですが、そういったものは考えておられないのですか。

□今、修学旅行で交流で海外に行ったり、あるいは、留学生を迎えたりとどうしてもいろいろな費用がかかってくるのですが、同窓会に少し支援をしてもらっています。ただ、委員会までは作っていない。

◎受益者負担ということはあるのですが、少なくとも全生徒にもチャンスは共通だということで理解を得られることが多い。他ございますか。

□3番目のスタディサプリについてですが、英語の家庭学習の充実についてで、本校で検討した結果なのですが、経費の問題と継続してできるかどうか。非常に費用対効果としていけるかなというのがあった。先生が関わらないと自分からゲーム感覚ではできないのかなということで見送っている経緯があります。取り入れる時におまかせにならないように、フォローをどう

していくかというのがかなり大切というのがあります。いろいろな大学でも基礎学力定着のアプリを取り入れているのですが、効果をどこまで学校がフォローできるかが難しいというのを耳にしたことがあります。本校は単位にすることができませんでした。学校のカリキュラムとしてしか決められたものしかできない。自主的な勉強だけで、あとは先生方がフォローすることができなかつた。他の学校では、単位化し、強制的にさせて効果を出している学校もあります。学生さんのモチベーションとして大変なのかなという思いを持っています。

◎ある高校では、フォローアップのために、朝学習で一定の15分間全員がやることにしたり、受験サプリアは入れたけれど家庭ではできにくいという生徒を放課後に集めてやらせたりしています。今、勉強することを思えばいろいろな手段があります。

□あとは、本当に学生のやる気の問題。R社の説明でいいなと思ったのは、誰が何回やっていたかわかる。それを成績に入れるとかいい意味でやる気を高めないと今言われたように何も使わずに終わってしまう子が出る可能性がある。成績に差があるので、半分ぐらいはやらないかもしれませんが、上を伸ばす機会があまりない。2級よりもっと上にいきたいという子をどう伸ばしていくか。英語科の教員と国際会計科の生徒がやる気にならないとうまくはいかない。

□学力の差があり、3級から1級当たりの内容をしている1つのクラスを2つのグループに分けて、どうしても中位の子に合わすと、上位の方のレベルが伸び悩んでしまうようなことがある。伸びる子に勉強のチャンスを与えるというのが一つの方法じゃないかと考え検討しているところでもあります。

□初歩的で恥ずかしいのですが、国際会計科は英語を主体とした感じですが、私は、国際的な税理士や会計士の育成かなと考えていたのですが、その方が名前と学習内容が合っているのかなと。

□国際会計として、3本柱として英語の力・簿記の力・情報処理の力を充実していこうと考えている。国際会計という名前についてご意見をいただいたのですが、商業高校では英語の力が弱いので英語の力を伸ばしてやりたい。そして簿記の力を同時に伸ばしていくことで進学が実現しやすい学科にしていきたい。商業高校といいますと就職というイメージがあるのですが、そういった中で進学に特化した学科をつくりたいということで国際会計科ということになった。

◎当時、英語のニーズは高かったのですが、普通科に進学しても英語を学びたいというニーズが中学校の調査でありました。今後、学科を変えるということになればそれなりの審議がいることになると思います。他ありますか。

□英検とTOEICの関係はどうなっていますか。

□生徒に呼びかけて希望者に受験をさせています。成績上位者は、1000点の満点で550、560点の真ん中のレベルをとっている。毎年、数名の生徒しか受験はしないのですが、受験の登竜門になっている。ただ受験料が、高く、英検の方が受験しやすい。

将来的には、国際基準のTOEFLといったものにシフトしていかなければならない。もっと生徒の力が上がってきたら、そっちにシフトしていくかもしれない。

◎それは新しい大学入試に関わってきますので、またご検討いただきたい。

◎留学の意義についてもお尋ねしたいと思いますので、次に、留学の意義や全国的な状況等について、事務局よりご説明願います。

●現在の情勢と海外留学の意義について主なところだけ説明させていただきます。今グローバル化という話がありましたが、今よくいわれている日本企業の海外生産の売上比率約40%になっていることや色々な業種の企業が海外事業を拡大しているという現状ですが、日本の留学生は増えていません。中国の伸びは明らかで日本の人口の半分以下の韓国の留学者数は日本の倍で、逆に日本の伸び率は下がっています。実際の数字は、約4万2千人で、国は2020年には倍増させたいということを出している。留学意義については、それ以外に「先の見えない時代」を生き抜くために必要な能力を身に付けるきっかけになるのかということ（3）質の高い時間、留学の期間、濃密な時間を過ごせるということ（4）進学や職業への意識、いわゆる世界に出ているいろいろな人と接することで自分の立ち位置が分かったり、自分の将来進みたい進路、理想像が明確になったりしていくことでキャリア教育につながっていく。

それに対してどのような支援制度があるかということですが、「トビタテ！留学JAPAN」というものがあるのですが、これは非常に難関です。なぜかといいますと、採用予定人数というのは全国です。3番を見てもらいますと、事前・事後研修参加費、授業料、現地活動費、渡航費をすべて国がもってくれるということです。兵庫県もグローバル化の時代に対応した教育にも力をいれてまして、高校生留学生促進事業で短期派遣につきましても補助をしています。留学期間が2週間以上、さきほど40日間のプログラムの紹介がありましたが、2週間以上1年未満が基本で給付金額が1人6万円。兵庫県内で210名が採択されています。額が少ない分これは幅広くしていきたいと思いますという考え方です。こういう支援をしていく制度が国・県はありますが、市については独自の制度は作っていません。

◎ただ今の説明についてご質問・ご意見はありませんか。

◎小学校から英語をはじめて小・中とあがってきた高校の段階でかなりのシステムを用意するのが魅力づくりにはなるし、明商へ行って英語ということにもつながるかもしれないですね。

1名男子生徒が申し込もうとしているということですが、県の補助の対象にならないのですか。

この制度の利用も検討したい。

◎日本の若者は、海外に行かなくなったといわれている。一方で思いがけないところで日本人が活躍するテレビがある。一定の条件を与えたら、結構みんな頑張れるのではないかと。

□結構、長い期間で、80万、100万超えるというはじめての留学の制度。実際に100万出せるご家庭がどれほどあるのか。語学力を磨くだけでなく、語学力を身につけないといけないという刺激の期間でもあるので、もう少し期間を減らして、例えば30万、40万でも行ける留学の機会を国際会計科としてつくって、刺激を与える。結局、毎年1人しか行かないのであれば、留学制度の充実になっているのかという気もするので、中学校に向けても、これぐらいの長期もあるし、短期もありますよということを実態も含めて考えていきたいと思います。

◎例えば、海外に行かずに明石商業として市立としてできる独自の語学学習システムを保護者の意見を聞きながらつくってもらえるとありがたい。

他いかがですか。あの商業と英語について指摘していただいた部分もあるのですが、商業に行っても英語をしたいという子がいたのは事実。普通に高校生活を送っていて、その範囲の中で明石商業に行ったら英語についても独自のシステムで学べるというようなことも検討していただければと思います。

何かご意見があれば、お願いします。

○情報処理、英語力を身につけて、その先はどうなっていくのか。中学校としたら、あなたの売りは何ですか。と聞いてこういう大学を目指したらどうかという進路指導もできる。

□推薦基準として英語と簿記の1級という資格をもっていれば大学への道が開ける。

協議（2）保育に関する学びについて

◎それでは、「保育に関する学び」について、まず第1回検討会議の意見を振り返っていただき、その後の協議を進めていきたいと思っております。

【第1回の議事録読み合わせ】

こういったことも合わせてご意見をいただけたらありがたいのですが。

□最近、4年制大学出身者の人が増えています。短大だと2年間で資格を取りすぐに就職。初任給でも4年制大学の方が高い。保育科をつくったら、3年間プラス短大に行くことになったときに、保育科での3年間がプラスになればおもしろい。例えば、ピアノ不得意先生が増えています。園によっては、園内で発表会を行い、少しずつレベルアップを図っている園もあるようです。なんでピアノができないかは、基礎が短大だけでは十分学べない。基礎を学ぶことでステップアップしていくそうなので、ピアノも教科じゃないけど、弾けるチャンス。子どもの様子を見て弾けないといけない。高校の保育科をつくるのであれば、「ピアノの時間を増やしてあげて学ばすよ。」「短大に行っても大丈夫ですよ。」といった門戸の開き方もいいんじゃないか。ピアノは相当ネックになります。また、保育のニーズがあがってきている中、保育士を確保しないと保育園は

運営できない。ゆっくりと学べる中で、将来保育士になりたい。幼稚園の先生になりたいという学生が、学べるほうがいいんじゃないかなと思いました。

◎50代、60代の幼稚園教諭や保育士の先生方は、習い事の中心がピアノで何とか弾ける。今は、習い事の幅が広がってしまってピアノのレッスンは成り立たないとも言われています。結局そういう点でも将来につながる学びになっているかかどうか。資格も含めてですね。他いかがですか。

◎潜在的なニーズがあって、商業高校を卒業しても保育園に行きたいという生徒もいるわけですし、今後そういった人たちの希望をかなえていかなければいけないという部分もありますので、潜在的なニーズに応えるという部分で対応する工夫をしていただくことになるのかなと思っています。学校の方で検討いただければと思います。

では、保育の学びの環境について、兵庫大学の高大連携の取組や卒業後の進路状況を事務局よりご説明願います。

●協議（2）保育の学びについてという資料と別添資料をもとに説明させていただきたいと思います。保育の学びに取り組む大学、専門学校ということで兵庫大学、兵庫大学短期大学部に視察にいつてまいりました。保育系で明石商業から進学実績が最も多いということと距離的に近く今後連携を進めることになった場合便利だということで選びました。専門学校については関西保育福祉専門学校、卒業生も進学していますし、細川委員からも説明をいただけるということでその2か所にしました。

保育士等の資格を取得できる学部・学科について、大きな特徴といたしまして、幼稚園教諭一種免許と保育士資格の両方を取得することが可能であるということです。資料は大学の案内を抜粋したものでございまして、4年間を通じたカリキュラムですのでゆっくりと学べるカリキュラムになっています。短期大学部が保育科第一部2年制と保育科第三部がありまして、第三部は、午前中の授業だけで3年間となっており、午後の時間帯は自由に使えます。卒業時に保育士資格と幼稚園教諭二種免許の両方を取得することができます。短大の案内をのせておりまして、カリキュラムがあります。2年間でこれだけのカリキュラムをしていくことになり、第三部の3年間のカリキュラムを記載しています。続きまして、就職の状況でございます。就職率は100%、子ども福祉学科1期生卒業生の22%が公立の保育所、幼稚園に合格しています。具体的には、明石市内の保育所にも就職しております。短期大学の方の就職の状況でございますが、就職率は100%、卒業生の約94%が幼稚園、保育園、施設等専門職を活かしたところに就職されています。公立の保育所ということで明石市立の保育所にも就職されています。

兵庫大学の特色ある取組ということで、いわゆる高大連携の取組で、どのような取組をしているかも聞いてまいりました。

1つ目ですが、地域の大学として、地域の高等学校に本大学の出前講座「アカデミック・レクチャー」等を提供しています。アカデミック・レクチャーとは、大学の教員が高等学校に出向いて講義、いわゆる「出前講座」を高等学校の皆様にご紹介するものです。講座が148講座あり

まして、保育にかかわることとさせていただきますと、子ども福祉学科の「高等教育機関で学ぶ就学前教育」「乳幼児の音の世界」にあたるような講座、さらには「保育の魅力」「赤ちゃんの不思議」など保育の魅力を学ぶために、講義だけでなく、演習というのがある、こういう出前講座などを高等学校に出向かれ、無償でやっていただけます。それ以外も、播磨南高等学校の2年生を中心に、ピアノレッスンを2日間実施しています。高等学校の要望によってはこういうピアノレッスンをされておられたり、大学の幅広い学びを実際に体験できるよう、「高校生のための大学先どりセミナー」として1日限りの特別講座を夏季休業中にされています。「大学先取りセミナー」としては、1限から4限まで様々な分野の講義がありまして、それを実際、大学の教室で受ける。さらには、複数講座を受講した方にはランチが無料、キャンパスグッズも無償で提供されています。保育士、幼稚園教諭を目指すサマーセミナーということでピアノレッスンが壁になっている方に誰でも受講できるレッスンがあり、全国から定員30名を超える応募があったとお聞きしました。意識の高い幼児教育を目指す高校生が申し込んでこられたとおっしゃっていました。

明石商業高等学校との連携が今までどんなものがあるかということでございますが、明石商業高等学校には、4年制大学2名と短期大学8名（保育科第一部5名、第三部3名）の計10名の指定校推薦枠をいただいているわけですが、本年度は、すべて活用していない状況でそこまでのニーズはありません。明石商業高等学校との繋がり、商業科の先生が相談に来られ、出前講座「アカデミック・レクチャー」を活用し、現代ビジネス学科の教員を派遣してもらい、産学連携の取組を手伝っていただいています。現在、取り組んでいるプログラムに、明石商業高等学校の生徒と一緒に参加してもらってもよいし、明石商業高等学校単独プログラムを考えることもできるということで、国際会計科も含めたグローバル化に対応した学びも考えられます。入試部長さんに対応していただけたのですが、大学として生徒に来てもらいたいという思いはあるが、学長も「地域人材育成」や「地域貢献」という考えを持っているので明石商業高等学校とは、長年のお付き合いがあり、保育だけでなく、広く太くシステムとして協力させてもらえたらと考えているとありがたいお話をいただきました。

◎ただいま、事務局より説明がありましたが、このことについて委員の皆様からご意見・ご質問がありましたら、どうぞお出しください。

●もしよかったら、保育への進学状況について学校からご説明いただけたらと思います。

□保育に限って説明させていただきます。明石商業高校保育関係進学先（平成26年～29年度）で具体的な大学・短大・専門学校がのっております。29年度については、予定で出しているもので実際確定してはいない。平成29年度は多くて13名。母体が今は3年生は320名、320名中13名が保育系を希望していたということです。28、27、26年を見ていただくと5名、7名、7名で320名ですので、全体から見てのニーズがあるかというところとすごく多いというわけではないのがおわかりになると思います。数パーセントが保育系を希望しており、一番多いのは、やはり経営、経済系となります。

◎続いて、関西保育福祉専門学校の進路状況等について事務局よりご説明願います。

●細川委員がおられますので、概略を私から説明させていただきます。保育科2年生で、兵庫県内で唯一、短大と同様に幼稚園教諭二種免許と保育士資格の両方が取得でき、これは系列の大学があるということです。認定こども園が増えているということで両方の免許状を取得していることで就職には有利だということところが大きな特徴だとお聞きしました。

保育実習等は、授業時数確保のため、夏季休業中に実施している。生徒は、将来の目標をもって入学する。やはり、専門学校に行くということで目的意識の高い生徒さんが来られる。そのため、入学後に将来の夢を決めるなど「自分探し」をすることはしない。これは大学と違うということをお聞きしました。専門学校の様子につきまして、これだけの単位を取得しないと保育士、幼稚園教育二種の免許はとれないということで、参考にいただいた教育課程の表を載せさせていただいております。就職につきましては、就職先一覧というものが出ております。卒業生100名に対して求人件数が1,340件、求人人数が1万人を超えており、これだけ人材が不足しているという現状を表していると思います。民間企業への就職はありません。

明石商業高等学校との連携ということで、関西保育福祉専門学校におかれましても出前授業をやっておられる。最後に細川委員からいただいた全国の専修学校の入学者数の志願者数、入学者の推移ですが、保育系関係学科につきましては、入学者は右肩上がりなのですが、入学定員に比べるとかなり余裕があり、これだけ社会的ニーズがあるが、実際入ってくる学生さんはなかなか達していないという状況を表しています。

□4年制の大学と違って、2年制となるので短期大学とほぼ一緒の内容ですが、短期大学は、卒業要件が資格要件と異なりますので、途中実習でつまづいたり、授業で保育士は無理だとなった場合、卒業することはできます。いわゆる資格要件を取れなくても専門的な比重が非常に最低限のものしかやっていないという短期大学もあるのですが、専門学校の場合、資格要件がそのまま卒業要件となります。資格を取るための勉強を最後までやらないと卒業できない。そこが短期大学と専門学校の大きな違いなのかなと思います。かなり目的意識をもってないと、途中でつまづいてしまうと退学しか道はないということになってしまう。本校の場合、カリキュラムそのものが卒業単位そのものになっていますので、保育士の資格と幼稚園の教諭免許の科目以上に設定しています。求人ですが、創立して60数年経ちますので、卒業生との関係性は非常に深いので、就職に関してはどこでも学生さんの選び放題という形にはなっています。家から通える近い所を探すのか、処遇のいいところを探すのかいろいろな条件によって、学生は探している状況にあります。専門学校ですので、保育者になりたいという子ばかりですので、実習や授業などで互いに夢を語り合って、途中で支え合う仲間意識というのはできている。卒業後も非常につながっていくということでもあります。もう一つは連携大学がありますので、複数免許を取得できることですね。隣接する小学校の免許、あるいは特別支援学校の免許を取れたりする大学との編入制度もありますので、大学の方に編入していく学生もいます。全国で初めて男性の保育士を輩出したのもうちの学校です。あと明商さんの方には、2年生対象の職業のガイダンスに行かせていただいて学生さんと話をさせてもらいました。先ほどの進学の進路先として出していただいている27年度に入学された方が卒業年度を迎えるのですが、二人とも就職は内定しております。

◎それでは、皆さんの意見もお伺いしたいと思いますが、いかがでしょうか。

潜在的なニーズの話をしましたでしたが、実態はそう多くはないということです。高大連携と地域資源の活用という点で、保育の志望者を核としてという風になるのかもしれませんが。明石市で足りない保育士を明石の子どもたちで何とか育成できないか。商業科とはいえ、市立高校の役割みたいな部分をねらいの1つとして考えたりもします。

◎事務局と細川委員より説明がありましたが、このことについて委員の皆様からご質問や保育の学びについてご意見がありましたら、どうぞお出しください。

【質疑応答】

□地元の保育所に行かせていただくにあたっていいなと思うのは、実習先で明石の保育所に行かせてもらうことができると、それが就職につながっていくケースもあります。公立の保育所も明石市出身の学生についても積極的に受け入れてもらっていますので、そういう点ではありがたいと思っています。

□よくわからないので、保育士さんとは、そもそもなかなかしんどい職業と思われる人が多いのか、人気のある職業なのか。

◎ニーズも高いし、勤めたいという方も多い。昔勤めていた方をパートタイムで契約して人員確保をしていくということも聞いたのですが。かなりニーズはあるのに、希望する学生が少ない施設もある。そのあたりは、労働条件を改善していかないといけないということになるのでしょうか。兵庫教育大学でも、多免許取得で保育士、小・中・高教諭の免許を取得しても、就職段階で小学校を選んでいくことが多い。勤務の実態を考えた時に、選択しにくいということもあるかもしれないですね。

□現実的に公立と比べると休暇制度とか子育て支援の部分、育児休業制度という所が、幼稚園教諭と保育士の分野では、民間が7割をしめている。ずっと働き続けるというのは難しいという見通しを学生の中で持っているかもしれない。そのあたりのところは、国の方から改善が進んでいるが、アピールがうまく伝わっていないという現状がある。一時期、責任の重い仕事の割には、給料が安いということが言われている。非常に夢のある仕事ですが、他に給料のいい仕事があるんじゃないのと家族に反対され、進学を反対されたということを実際に聞いたことがあります。

□今わたしも放課後児童支援委員の研修をとりまとめてやっておりますが、大学の保育の教授に話を聞く機会があるのですが、保育所に入っても離職率が高い。今回、明石市が自前で保育士を育てるとするのが喫緊の課題であり、保育士不足を解消するというねらいは間違っていないと思います。入っても現実をみたら、つらい労働。残業もあるし、結婚したら続けられるかといえばそうではないということで、3年以内に離職する率が非常に高い。それを離職しないでもいいような働き方改革をする方が、よっぽど保育士の確保という面ではいいんじゃないですか。明商の魅力づくりという面では、保育士をどうするかということと別な話かなと考えています。そうい

ったこともある面では必要だが、そこまでこだわる必要はない。それより別な方法で魅力づくりをする必要がある。今は幼保一体と言われているので、4年生大学を出て、幼稚園の資格を持っていないと、なかなか保育士の勉強だけでもなれないということもありますので、やめない、リタイアした人でも入りやすい仕組みをつくった方が実質的かなと思います。

□テレビとかで言われているような悪いところではない。テレビで言われているのは東京など都会の話が多い。実際に東京からヘッドハンティングに来ている人が例もある。保育士さんはいい環境を自分で選べるようになってきている。自分たちで選んでいるので少しは変わってきている。結婚して家庭に入ろうかと思った場合でも、子育てが落ち着いたら戻ってくる先生も多くみられます。まあ、ニュースで言われているほどひどい処遇ではない。民間レベルも明石市でも頑張っているのだから、かなり賃金が上がってきているので、そんな悪い状況ではない。あと中学校がブラックだとか、小学校がブラックだとか、PTAがブラックだと言われ、いろいろなブラックをメディアにつくられてしまったのではないかと。現状は、中学校の先生もがんばっておられるし、小学校もそうです。ごく一部の人が悪いことをした途端に何かすごく悪くなる環境をつくられていくところが出てくるのが残念。将来的に明石市で保育士を育てるぞというビジョンになればそういうような門戸の開き方もいい。長期的に何か見た中で子どもたちが明商に行っても保育もできるんだというきっかけができるのであればいい。何か人がいないからさあつくろう。希望者が少ないから、だめというのではなく、長期的なビジョンで話をできたら。マスメディアにのせられている感じがある。

◎基本的には商業高校というスタンス。しかし明石の子どもは明石で育てるので保育を希望する子があれば、将来明石市で保育士になるような流れをつくることができればいい。当然、一般の学生は商業を学び、明石で勤めてくれることを考えていただければと思います。

他いかがでしょう。

では、みなさんの意見をもとに、会長としてまとめさせていただきます。

①

新たに学科を設定するとかではなく、明石商業であっても、保育を希望する生徒があれば、将来につながるような視点での高大連携を発展させることを検討する。もしくは、市内の保育所へインターシップに行かせることで地域に帰ってくるという視点、明石市立の学校だという視点で取り組んでいくようにしていただければと思います。

②

保育だけではないのですが、国際会計科や商業科、スポーツ科学類型も含めて近隣大学の資源を活用するという点で、明石商業全体の魅力づくりに保育を核にしながら突破口を開いて、高大連携を進めていただければと思います。

地域の子を地域の人が育てるという関係。明石市民が明石の中で生活して、明石市民を育てるという観点で、市長部局、子ども関係を含めての連携という点で、もし将来保育にかかわる何かあるのであれば、制度的な部分も検討していただければと思います。ですから、明石商業を考える中で今2つの提案を参考にいただき、魅力づくりを進めてもらいたいと思います。

最後に、外部委員のみなさま、感想を述べていただく中で、私のまとめのつけたしをしていただければと思います。

□明石商業を魅力ある学校にするには、商業の学校に行って税理士、会計士など地域に帰って魅力ある就職先を。大学を出てからでも、明石商業を出てからでも就職をして、ただし、商業に関することを目指していくような魅力ある学校になってくれたらと思います。保育については、必要なのはわかるが、ゆっくりとじっくりと考えるのが僕の考え方です。

□240名、国際会計40名で280名という部分。ここを何とかしてもらわないと行きたい学生がいる。ここを増やしていけば、いろいろ広がっていくと考えております。PTAの目線からいくと生徒数を減らされるのは厳しい。PTAの会費も減る。人が増えるには、地域が何割で地方、県内遠い所1割や2割という形ですればいいと思っています。特に野球部なんかも遠いところから来られていますけれども、野球部に限らずどの部活も、「どこ行きたい」と聞かれれば、「明商に行きたい」と言われるような学校にしていきたい。定員数をぜひ今後可能であればもう1クラス、前回の現状維持ぐらいはしてほしいとお願いしておきたい。30年度は難しいと思いますが、それ以降は考えていただきたいと思います

□「明石商業、活力出ているよ」という話は聞かせていただいて、部活とか非常に人気が高くなってきている。一つ魅力をつくることによって、学校は活性化していくんだなと思いましたし、先日、生徒さんたちとお話させていただいて、非常に明るく元気な生徒さんが多いなという印象を受けました。学校そのものの魅力、雰囲気づくりになっている。やっぱり学生さんが生き生きしている学校は、非常に魅力のある学校だなという風に思います。保育に関しては、きっかけづくりをしていただけたら本当にありがたいと思います。なりたくても、ちょっとやめとこうかというようなマイナス思考な子がいますので、子どもたちの一番基本的な人格形成の部分に携わる仕事の魅力とかやりがいとかを学校の方でも家庭科とかいろいろな機会はあると思いますので伝えていただけたらと思います。

□非常に小回りのきいた時代のニーズに合わせた魅力ある学校にさせていただいていると思っています。今後、さらに発展させるにはどうしたらいいかということについて、これでよしということではなくなっているのでこれからもいろいろ考えていただいて伸ばして行ってほしいなと思います。

□市の状況、環境によっても市立高校ゆえに期待される部分はあると思います。ただ、本筋は、商業高校なので、こちらの方の可能性を考えていただけないかなと少し思います。それから委員が言われていたように同じだなど、僕らが携わっている中でいい工場があっても、工場やというだけで来てくれないことがあります。今は、工場もきれいになって、冷暖房もあって昔のイメージと違いますが、地道に努力するという部分と生徒や保護者の皆さんに分かってもらうようアピールしていく部分もいると思いました。

□明商の野球も見ているのですが、甲子園に行くことを考えてみますと明石という名前がよく出るという一つのきっかけとして野球があるということもあるのですが、全国区の数名の方を寄せ集めていうわけではないのですが、呼べるような環境にして確固たる強い明商をつくってほしい。先ほどの英語の話ではないのですが、私は高校で2週間ホームステイをしたのですが、まったく成果が表れず、外国に行くたび英語に困っています。一人で海外の空港でドキドキしたということを考えますと、実際に海外に行ってドキドキをして人の顔を見て、顔色を見てどうい話し方をするんだということも留学の楽しみになるんじゃないかなと思います。保育の話ですが、そういった希望者がいるのであれば、保育業界の話をしていただいて、高校生が就職する、受験する前に、夏休みに中学生のトライやる・ウィークの発展型で、少し実習よりも軽い目で夏休みに保育士の体験バージョンのボランティアという形で、志の高い生徒さんが来てくれると助かるなあと思います。保育科どうのこうのではなく、行きたい子が保育園に体験しに行くのもいいと思います。

○中学生が三者懇談会をしている。中学生の3年生段階でもまだ漠然としている。これと決めている生徒は少ない。保育士になりたい生徒は多いです。そういった生徒は明石西高の教育類型に行つて勉強して、小学校、中学校、幼稚園の教育を考える。明石南高校でキャリア教育を考えて、将来短大か大学に行こうかという感じです。明商に入つたら、そういう体験ができる程度にしてはどうか。あまり中途半端に科をつくってしまうのはちょっと違うかな。

◎3回にわたつて本当にありがとうございました。学校も動いていかないと沈下していく、活性化しないというのもあります。何らかの機会を今後も継続していただいて、明商の現状と今後について考えていく中で、将来これだという部分に的をしぼれたら邁進していただきたい。今回の意見を教育委員会で参考にしていただきたいと思います。最後に、明商の先生方からあればお願いします。

□3回にわたつて、長時間にわたつて議論していただき明商を大事にしていただきありがとうございました。1つの学校についてこれだけ考えていただけることは県立学校では考えられない。特に学区のところでは全県学区が実つて職員も喜んでる。実際に全県になってどれぐらい数が変わるのかわかりませんが、明商に来たい生徒を全県から取れるというところでおかげさまで一歩前進できたと思います。保育科については、みなさんのご意見をいただいたように設置するのはもう少し慎重に考えたほうがいいのかというご意見であったと思いますので、先生方にもお伝えして出された意見を参考に魅力づくりをしていきたい。この3回本当にありがとうございました。

◎このあたりで事務局にお返ししたいと思います。

本日は長時間にわたり、たくさんのご意見をいただきました。
委員の皆様、本当にありがとうございました。

では、司会を事務局へ戻します。

廣岡会長、ありがとうございました。

では、連絡事項へ移ります。

本日の会をもち、本検討会議は終了となります。議事録を取りまとめたうえ、後日委員の皆様には送付させていただきます。ご確認いただいた後、教育委員会ホームページに掲載いたします。

また、今後の教育委員会および文教厚生常任理事会で、本日の検討会議の報告をする予定となっております。

ここで最後となりますので教育長から挨拶をさせていただきます。

教育長：

みなさん本当にありがとうございました。明商の魅力づくりということでいろいろご意見いただいて具体的に方向性を示された部分もありますし、今後に向けていいご提案をいただいたと思っております。明商が行きたい学校、選ばれる学校となるように、さらにこれからも私どもも精いっぱい学校を支えていきながら進めていきたいと考えております。中学生がここへ来て、将来が広がっていくという学校になってほしい。明石商業高校という看板をもった学校ですので、その部分をバックアップしながら、女子生徒も多いわけで、入ってからのきっかけづくりというご意見をいただき、広く受け入れるという土壌もあります。将来の進路選択につながっていくことも設定しようとするれば、時間の制限はありますが、いろいろなところにご協力いただけたらありがたい。いただいたご意見を取りまとめて、その中から魅力づくりを進めていけたらと思っております。本当にありがとうございました。

以上をもちまして、平成29年度 第3回明石市立明石商業高等学校魅力づくり検討会議を閉会いたします。委員の皆様、本日はありがとうございました。